

# エラック口腔ケア News

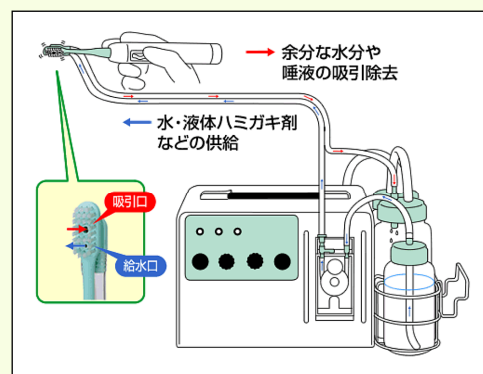
口腔ケアが介護保険の対象となって以来、多くの施設介護現場で口腔ケアを積極的に導入している昨今ですが、良好な結果を得るには施設介護ならではのノウハウがあるようです。介護付高齢者住宅ヒルデモアでご活躍の吉尾恵子歯科衛生士にご解説いただきます。

## 施設介護現場での口腔ケアの導入 Part 2

### 誤嚥のリスクのあるご入居者の口腔ケア

前号ではご入居者の口腔アセスメント、歯科受診体制の整備をご紹介しました。その中で「内視鏡による嚥下検査」を歯科医院の選択条件としましたが、その理由は、誤嚥のあるご入居者への口腔ケア、食形態の選択、食事介助にあたり、誤嚥の原因、状態の把握が必要となるためです。内視鏡検査はご入居者の居室でも検査が可能で、ご入居者の身体的負担が少ないのも利点の一つです。

当施設では、誤嚥性肺炎を繰り返しているご入居者に前述の内視鏡検査と口腔ケアを導入しました。口腔ケアの用具として「エラック給吸ブラシ」（注1）を使用することで、誤嚥のリスクのある方にも安心して口腔ケアができる環境を整備しました。最初は歯科衛生士1名で毎日口腔ケア・口腔リハビリを行っていましたが、ケアスタッフに手技・手法を指導しながら徐々に継続的なケアが行えるようにしました。これにより入居者の熱発回数が減り、摂食時間も減少し、離床時間増加に繋がりました。



注1：給水、吸引が全自動で可能な口腔ケアシステム（ライオン製）

当社のケアスタッフは温かい気持ちの持ち主ばかり。入居者にとって良いことなら頑張って対応するという気持ちを持つケアスタッフは当社の誇りです。

以下は誤嚥を繰り返していたご入居者の事例です。

### 事例

88歳女性、要介護度5、熱発が頻回（1ヶ月のうち半数は37度以上）、胃瘻対象者でしたが家族の要望でミキサー食、トロミの水分を経口摂取

#### 《検査内容》

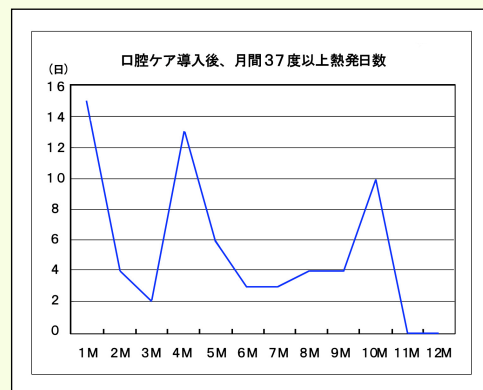
- ・嚥下検査 ～安全な水分トロミ濃度確定、食形態の確認
- ・摂食体位の評価、食事介助の方法、口腔リハビリ法の検討
- ・段階的に食事形態変更

#### 《ケア内容》

- ・口腔ケアの徹底  
～誤嚥予防のためエラック給吸ブラシを使用
- ・口腔リハビリ開始  
～口輪筋のマッサージ、介助による舌運動、アイスマッサージ

#### 《結果》

右グラフは口腔ケア導入後12ヶ月間の、1ヶ月に37度以上発熱した日数です。カゼ等で発熱が増加した月を除けば、口腔ケア導入により熱発が減り、安定した状態の維持に成功しました。



制作協力：東京海上日動サミュエル(株) [www.tmn-samuel.co.jp](http://www.tmn-samuel.co.jp)